発がん性に係るNOAELと許容濃度のレベルとの関係 (ジフェニルアミンの場合)

1 発がん性に係るNOAELの候補

日本バイオアッセイセンターのジフェニルアミンの長期経口投与試験の結果から、下のNOAELの候補が考えられる。

①雄ラットの血管系腫瘍の発生

4,000 ppm で脾臓及び全臓器における血管系腫瘍(血管腫+血管肉腫)及び血管肉腫 の発生が増加 (NOAEL 1,000 ppm)

②雌ラットの子宮における腺癌の発生

4,000 ppm で子宮における腺癌の発生が増加 (NOAEL 1,000 ppm)

③雄マウスの血管系腫瘍の発生

1,000 ppm で脾臓及び全臓器における血管系腫瘍(血管腫+血管肉腫)の発生が増加 (NOAEL 250 ppm)

(注)

- ・血管肉腫のみでは有意な増加が認められない。
- ・4,000 ppm 投与群では生存率が低下した影響もあると考えられるが、1,000 ppm 投与 群よりも発生が減少している。

2 許容濃度との関係

| | NOAEL が 1,000 ppm | NOAELが250 ppm の | (参考) |
|-----------|----------------------------|---------------------|-------------------|
| | の場合 | 場合 | 酢酸イソプロピル |
| | (雄・雌ラット) | (雄マウス) | (NOAEL 2,000 ppm) |
| 投与濃度 | 混餌経口投与 | 混餌経口投与 | 吸入ばく露 |
| | 1,000 ppm | 250 ppm | 2,000 ppm |
| 気中濃度への変換後 | 雄ラット 403 mg/m ³ | 244mg/m^3 | 2,000 ppm |
| (A) | 雌ラット 504mg/m³ | | |
| 許容濃度(B) | ACGIH TLV | 同左 | 管理濃度 100 ppm |
| | 10 mg/m^3 | | |
| 比率(A/B) | 40 | 24 | 20 |
| | 50 | | |

- 3 参考(がん以外をエンドポイントとするNOAEL又はLOAEL)
 - 血液/造血系及び肝臓への影響をエンドポイントとしたNOAEL (※バイオの試験結果報告書に記載されている値)
 - 〇雄ラット NOAEL 250ppm (12mg / kg 体重 / 日)
 - 〇雌ラットでは、NOAEL は求められず、 LOAEL 250ppm (15mg / kg 体重 / 日)
 - ○マウスの雄、雌でも NOAEL は求められず、LOAEL 250ppm (雄 29mg / kg 体重 / 日 雌 36mg / kg 体重 / 日)

経口 NOAEL から吸入 NOAEL への変換(ジフェニルアミン)について

<一般式>

吸入 NOAEL = 経口 NOAEL × 体重 / 呼吸量 (体重は 60kg、 呼吸量は 10m³ / 8 時間とする)

<ジフェニルアミンの場合>

がん原性試験(混餌)から推定される発がん性の NOAEL の候補

- ●雄ラット 1000ppm (48mg / kg 体重/日)
- ●雌ラット 1000ppm (60mg / kg 体重/日)
- ●雄マウス 250ppm (29mg / kg 体重 / 日)

これらの NOAEL を一般式に当てはめると (週7日投与を週5日労働に換算)

雌ラット 吸入 NOAEL=
$$60 \text{mg/kg}$$
 体重/日× 60kg/ ($10 \text{m}^3/8$ 時間) × $7/5$ = ($60 \times 60 \times 7$) / (10×5) mg/m³ = 504 mg/m^3

雄マウス 吸入 NOAEL=
$$29 \text{mg/kg}$$
 体重/日× 60kg/ ($10 \text{m}^3/8$ 時間) × $7/5$ = ($29 \times 60 \times 7$) / (10×5) mg/m³ = 244 mg/m^3